

教科 (芸 術) 科目 (書道Ⅱ) 学年 (2) 単位数 (1)

類型（ 共通 ・ **文** ・ 理 ） 履修規定 （ 必修 ・ **選択** ）

学習の目標			使用する主な教材				
1 書道に対する興味関心をより高め、創造のよろこびや大切さを理解する。 2 表現力の高揚を図り、主体的かつ創造的である書表現を追求し、芸術書道の確立を目指す。			・教科書『書Ⅱ』光村図書				
期	月	学 習 内 容	学 習 の 具 体 的 内 容 と ね ら い	評価の観点			
				関	発	技	鑑
学 期	4	漢字の書の美に親しもう 篆書の古典を学ぼう	・篆書の発生、発達について学習する。漢字に対する認識を高め、文字や文化について考察を深める基礎力を養う。	○	◎		
	5	泰山刻石から学ぶ 石鼓文から学ぶ 隸書の古典を学ぼう 乙瑛碑から学ぶ 居延新簡から学ぶ		○	◎		○
	6	仮名の書の美に親しもう 高野切第一種から学ぶ	・典型的な隸書の特徴をつかみ、様々な隸書の個性的な表現を味わうための基礎力を養う。 ・線活動の自在さを感じ取り、現代的な表現との接点や基本原理の共通性について考える。	○	◎		
	7	継色紙から学ぶ 篆刻から学ぶ		○	◎		○
			・平安仮名を中心に臨書活動をする。 ・変体仮名学習をより進めることによって表現の幅を広げる。	○	◎		
			・古筆の鑑賞を通じて広く一般教養に置き換えられる要素を探し出す。 ・茶の湯、和歌、古典文学との連携を図り、伝統文化の継承と鑑賞のための基礎力を養う。	○	◎	○	○
			・表現する文字を芸術的な美の対象としてとらえる。	○	◎		
			・印の多彩な表現を楽しむ。	○	◎		

二 学 期	8	漢字の書のまとめ	・画仙紙・半切への臨書作品制作を体験する。	○		◎	
	9	草書の古典を学ぼう 書譜から学ぶ	・唐代の孫過庭が書について論じたものである。造形は端正で温厚である。躍動味溢れるリズムを把握する。	○	◎		○
	10	行書の古典を学ぼう 集王聖教序から学ぶ	・さまざまな行書の特徴を理解し、臨書を通して運筆の違いを体感し、創作に生かす。	○ ○	◎ ◎		○
	11	祭姪文稿から学ぶ	・安史の乱で殺されたおいにささげた弔辞。顔真卿のやり場のない怒りと悲しみがつづられている。勢いのある運筆と線の抑揚や潤滑、また生々しく残る推敲の跡に、悲憤に満ちた心の動きを学習する。	○ ○ ○	◎ ◎ ◎		○
	12	漢字の書のまとめ	・画仙紙・半切への臨書作品制作を体験する。	○		◎	
三 学 期	1	刻字から学ぶ	・表現効果を理解し、刻し方や彩色の技能を習得する。 ・多様な表現を知り、自分の創作に生かす。	○	◎		
	2			○ ○	◎ ◎		
	3	学習のまとめ	・作品集制作を通して、技法の習熟と鍛錬の積み重ねの関係性について考える。作品を丁寧に、大切に扱うことの意味について考える。	○		◎	
評価の方法		授業に取り組む意欲・態度、さらには知力・能力の向上が図れ、より高度な芸術観を養うことができたかを評価する。学年末の成績は各学期の成績をもとに算出する。					